**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　「どちらの国も大好きです」**

**お名前：　内田紀子**

(下記より本文をご記入ください)

日本と韓国の間の“溝”ということを深く考えてはいませんでした。

　大阪に住んでいる頃は在日コリアンの人たちと接する機会も多く、意識することなく普通に付き合っていました。また、その後引っ越して出会った人は、朝鮮学校を卒業され、伝統の舞踊を継承されている方でした。

私としては何のわだかまりもなく付き合っていたつもりです。

　ところが、長女が祝福結婚により韓国の方と縁を持ち、嫁いでいきました。韓国のナモン市というところです。最初に主人があいさつに行った時、観光名所を案内され、最後に一万人塚という所に連れて行かれたそうです。そこは、私たち日本人は全く意識していませんでしたが、豊臣秀吉が朝鮮出兵をおこなった時、村の人一万人を集めて殺りくした所だそうです。

　初めて会った嫁の親に、そのような場所を紹介するということに、驚きと同時に韓国人の日本人に対する思いを教えられ、考えさせられました。

　長女は義父母と同居し、二男二女の子供にも恵まれたため、可愛がってもらいました。が、文化や習慣、考え方の違いに思い悩み、苦しい思いをずっと持ち続けてきました。特に、子育てに対しての考えの相違には辛い思いを抱き続けてきました。単に個人的な悩みというよりは、もっと根深い韓国と日本という、国家的な歴史的な、重い積み重なったものがあると思わざるを得ませんでした。

　しかし、子供たちはふつうに、生まれ育った韓国も好きだし、大好きなお母さんの国、日本も好きです。

　小学３年生になった長男が、日本語弁論大会で「ぼくは韓国も日本も好きです。でも、あまり仲が良くないことは胸が痛いです。もっと二つの国が交流し合えば、きっと仲良くなれると思います。だからぼくは大きくなって、超高速で行ったり来たりできる乗り物を開発したいです。」と発表しました。

　長い歴史が積み重なってしまった韓日の間の“溝”を埋め、超えていくのは簡単ではないです。日本人には理解できない、韓国人の日本に対する思いを知り、理解するようになる努力は必要です。それだけでなく、韓国も日本も愛することができる人間が増えていけば、“溝”を埋める期間も短くなるはずです。過去にとらわれず、新しい世代が二つの国を一つにしてくれると希望をいだきます。

　近くて遠い国から、近くて近い国になっていけることを願います。どちらの国も大好きです！という世代に期待と希望を持ちつつ、そのような人たちを大切に育てていくのが私たちの、責任であると思います。